

全国の美術館の学芸員から推薦された約450点から、100作品を選定
「日本で見られるアート100選:日本の現代アート編」
2026年3月27日(金) 特設サイトで公開開始

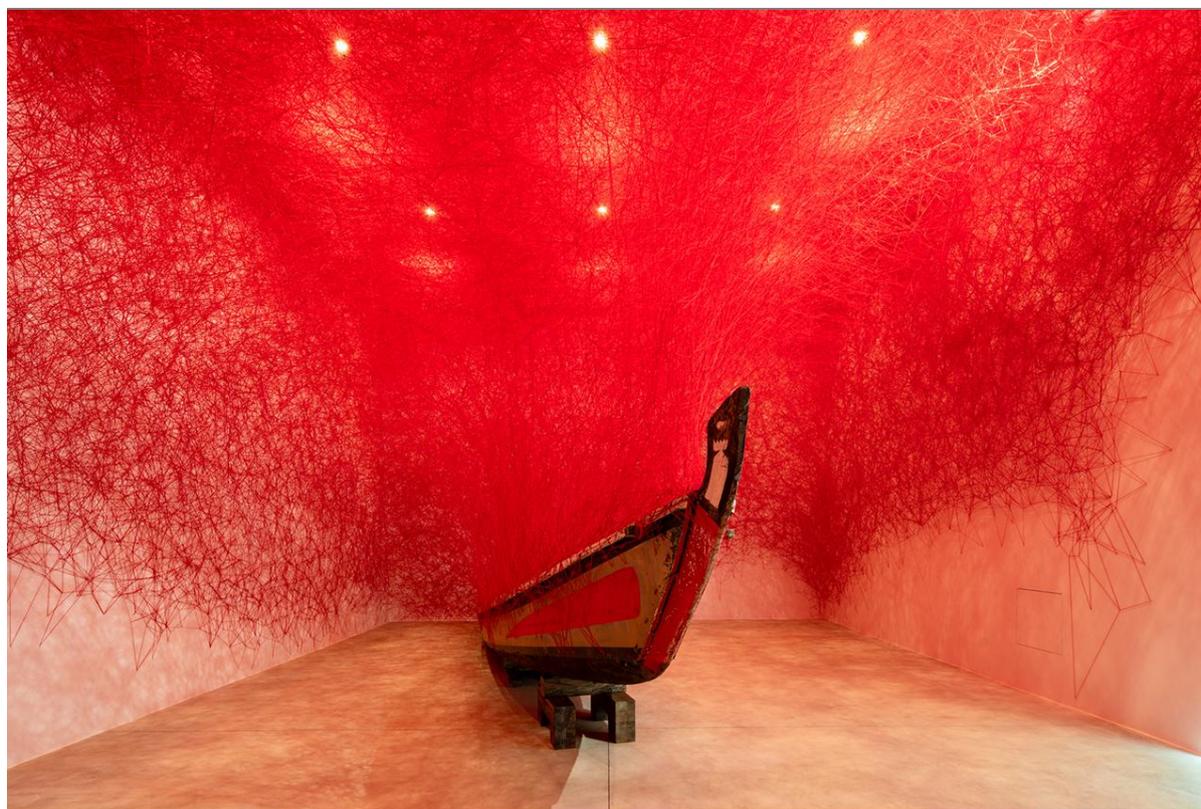
独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター（略称：NCAR）（東京都千代田区 センター長：片岡真実）は、文化審議会第3期文化経済部会の提言を受け、日本の美術館コレクションの総合的な魅力を可視化する新事業「日本で見られるアート100選」に取り組み、3月27日（金）より「日本で見られるアート100選：日本の現代アート編」を特設サイト（URL: <https://art100-ncar.artmuseums.go.jp>）で公開いたします。

日本国内の美術館には優れたコレクションが数多く存在していますが、これまで個々の作品が目されることはあっても、それらを総合的に捉える機会はありませんでした。そこで、日本のアートの豊かさを多くの方が知り、各地の美術館を訪れるきっかけにさせていただきたいという思いから、この新事業はスタートしました。

本事業は、毎回ひとつのテーマを設けて「100選」の選定と公開を継続していく予定で、初回となる今回のテーマは国際的にも注目を集めている「日本の現代アート」です。1945（昭和20）年以降に制作された作品が対象で、全国の400か所以上の美術館の学芸員に協力を依頼し、推薦された450点もの作品の中から、外部有識者を含む6名で構成された選定委員会が協議を重ねて100の作品を選定しました。これらの作品は、32の都道府県内の美術館に所蔵されています。また、作家のジェンダー比率も偏らないよう留意し、男性55名、女性43名*が選定されました。

特設サイトでは、作品100点の画像、基本情報、解説、所蔵館リンクの閲覧が可能で、関連年表や、作者や所蔵館への取材記事などのコンテンツの公開も予定しています。

*グループはカウントに含まず

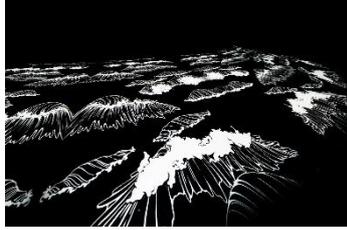


「日本で見られるアート100選：日本の現代アート編」の一作目

塩田千春《水の記憶》2021年 十和田市現代美術館

©JASPAR, Tokyo, 2026 and Chiharu Shiota

【選定作品の一部とロゴ】



束芋《真夜中の海》2006/2008年、所蔵および写真提供：公益財団法人アルカンシエール美術財団／原美術館 ARC ©Tabaimo



中谷美二子《Dynamic Earth Series I》霧の彫刻 #47610、2021年、長野県立美術館 ©Fujiko Nakaya ©Nagano Prefectural Art Museum



若林窟《Valleys (2nd stage)》1989年制作/2006年設置、横須賀美術館 2023年撮影：山本糾



高松次郎《影》1977年、国立国際美術館 ©The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates, Tokyo, Pace Gallery, New York and Stephen Friedman Gallery, London. 撮影：福永一夫



山崎つる子《作品》1963年、兵庫県立美術館（山村コレクション）©Estate of Tsuruko Yamazaki, courtesy of LADS Gallery, Osaka and Take Ninagawa, Tokyo



「日本で見られるアート100選」ロゴ

【選定作品一覧】

都道府県	所蔵館	作家名	題名	制作年(西暦)
北海道	札幌芸術の森美術館	砂澤ビッキ	神の舌	1980年
青森県	国際芸術センター青森 十和田市現代美術館	青木野枝	雲谷-I	2002年
		塩田千春	水の記憶	2021年
福島県	弘前れんが倉庫美術館 福島県立美術館	笹本晃	スピリッツの3乗	2020年
		大岩オスカール	温室効果	2001年
宮城県	いわき市立美術館 宮城県美術館	菅木志雄	木のしきり	1983年
		吉澤美香	へー45	1993年
栃木県	栃木県立美術館	白髪富士子	作品	1961年
		出光真子	おんなのさくひん	1973年
		多田美波	周波数FL10-6874	1974年
群馬県	公益財団法人アルカンシエール美術財団／原美術館ARC	舟越桂	風をためて	1983年
		戸谷成雄	森II	1989-1990年
埼玉県	うらわ美術館 原爆の図丸木美術館(1-14部)	束芋	真夜中の海	2006/2008年
		塩見允枝子	Spatial Poem No.1	1965/1980年
東京都	東京国立近代美術館	丸木位里、丸木俊	「原爆の図」連作	1950-1982年
		河原温	「浴室」連作	1953年
		山下菊二	あけぼの村物語	1953年
		辰野登恵子	Work 84-P-1	1984年
		日高理恵子	樹を見上げてVII	1993年
		高嶺格	God Bless America	2002年
		田中功起	ひとつの陶器を五人の陶芸家を作る(沈黙による試み)	2013年
	東京都現代美術館	鶴岡政男	重い手	1949年
		中村宏	砂川五番	1955年
		中西夏之	洗濯バサミは攪拌行動を主張する	1963/1981年
		オノ・ヨーコ	グレープフルーツ	1964年
		李禹煥	線より	1973年
		大竹伸朗	ゴミ男	1987年
		三上晴子	スーツケース (World Membrane: Disposal Containers - Suitcase)	1992-1993年
	東京都写真美術館	毛利悠子	I/O	2011-2016年
		風間サチコ	噫！怒涛の閉塞艦	2012年
	世田谷美術館	石内都	「Mother's」	2000-2005年
		片山真理	子供の足の私	2011年
	練馬区立美術館	芥川(間所) 紗織	古事記より	1957年
	目黒区美術館	三島喜美代	20世紀の記憶	1984-2013年
	森美術館	川俣正	プロジェクト「ビーズ・ガーデン」	1992年
		森村泰昌	肖像(双子)	1989年
		山城知佳子	肉屋の女	2012年

2026年3月27日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

都道府県	所蔵館	作家名	題名	制作年(西暦)
千葉県	千葉市美術館	村岡三郎	貯蔵- 蠅の生態とその運動量	1972年
神奈川県	神奈川県立近代美術館	イサム・ノグチ	こけし	1951年
	横浜美術館	斎藤義重	内部	1981年
		奈良美智	春少女	2012年
	川崎市岡本太郎美術館	岡本太郎	森の掟	1950年
	平塚市美術館	福田美蘭	見返り美人 鏡面群像図	2016年
	横須賀美術館	若林奮	Valleys(2nd stage)	1989年制作/2006年設置
	彫刻の森美術館	宮脇愛子	うつろひ Utsurohi	1981/再設置2015年
新潟県	新潟市美術館	木下晋	100年の視力	2001年
富山県	富山県美術館	山口勝弘	ヴィトリヌズNo.1	1952年
		福島秀子	燦然たる飢餓	1956年
		久保田成子	階段を降りる裸婦	1975-1976/1983年
石川県	金沢21世紀美術館	椿昇	エステティック・ポリューション	1990年
		西山美なコ	ザ・ピンクはうす	1991/2006年
		村上隆	シープリーズ	1992年
		岩崎貴宏	リフレクション・モデル (テセウスの船)	2017/2021年
山梨県	山梨県立美術館蔵	須田悦弘	銀座雑草論	1993年
長野県	長野県立美術館	中谷芙二子	Dynamic Earth Series I 霧の彫刻 # 47610	2021年
岐阜県	岐阜県養老公園	荒川修作+マドリン・ギンズ	養老天命反転地	1993-1995年
静岡県	静岡県立美術館	草間彌生	無題(No. White A.Z.)	1958-1959年
		石田徹也	燃料補給のような食事	1996年
愛知県	愛知県美術館	桂ゆき	人と魚	1954年
		寺内曜子	Hot Line 68	1986年
		杉戸洋	the Second Lounge	2002年
		志賀理江子	「螺旋海岸」	2009-2012年
		名古屋美術館	赤瀬川原平	押取品・模型千円札 梱包作品(かばん)
	豊田市美術館	三木富雄	EAR	1965年
		中原浩大	無題 (レゴ・モンスター)	1990年
		会田誠	あぜ道	1991年
		原口典之	Untitled	2007年
三重県	三重県立美術館	イケムラレイコ	夜の浜辺	2002-2003年
大阪府	国立国際美術館	ルース・アサワ	無題(S.317、壁掛け式、中央部は開いた五芒星と枝が重なりあう形にワイヤーを縛ったもの)	1965年頃
		高松次郎	影	1977年
		篠原有司男	ボクシング・ペインティング	1991年
		古橋梯二	LOVERS	1994年
		島袋道浩	人間性回復のチャンス	1995年
		加藤泉	無題	2006年
	大阪中之島美術館	やなぎみわ	案内嬢の部屋 B1	1997年
兵庫県	兵庫県立美術館	白髪一雄	作品II	1958年
		吉原治良	黒地に赤い円	1965年
		大竹富江	無題	1986年
	兵庫県立美術館 (山村コレクション)	元永定正	作品	1961年
	山崎つる子	作品	1963年	
島根県	島根県立美術館	杉本博司	〈海景〉より	1987年
		遠藤利克	エビタファー円筒状の	1990年
岡山県	公益財団法人大原芸術財団 大原美術館	鴻池朋子	第1章	2006年
広島県	広島市現代美術館	宮島達男	時の死	1989年
		ヤノベケンジ	汚染されたアトムスーツ	1997年
山口県	山口県立美術館	朝倉摂	日本1958-2	1958年
徳島県	徳島県立近代美術館	横尾忠則	TADANORI YOKOO	1965年
香川県	高松市美術館	田中敦子	電気服	1956年/1986年
		工藤哲巳	あなたの肖像	1963年
		岡崎乾二郎	あかさかみつげ	1981年
	豊島美術館	内藤礼	母型	2010年
	ベネッセハウスミュージアム	柳幸典	ザ・ワールド・フラッグ・アント・ファーム1990	1990年
高知県	高知県立美術館	岡上淑子	招待	1955年
		合田佐和子	もの思うペロニカ	1972年
福岡県	福岡市美術館	菊畑茂久馬	ルーレットNo.1	1964年
		手塚愛子	縦糸を引き抜く-五色	2004年
	福岡アジア美術館	小沢剛	醤油画資料館	1999年
熊本県	熊本市現代美術館	田部光子	人工胎盤	1961/2004年
大分県	大分県立美術館	吉村益信	反物質; ライト・オン・メビウス	1968年
沖縄県	沖縄県立博物館・美術館	照屋勇賢	結い、You-I	2002年

選定委員のコメント(ウェブサイトより抜粋・五十音順)

金井直(信州大学人文学部教授)

現代の美術の流れをつくってきた作家・作品をしっかり紹介すること、その流れを見直すうえで、あるいは、これからの流れをつくっていくうえで重要な作家・作品をできるだけ加えることを考えて、選定にあたりました。さらに意識したのは、全国各地の美術館の作品をなるべく多く選ぶことでした。これには地域の美術を顕彰すると同時に、地域の美術館の収集活動を評価・応援したい思いがありました。今回の100選が各地の美術館の魅力再認識の一助となれば、なによりです。

川浪千鶴(インディペンデント・キュレーター、元高知県立美術館企画監兼学芸課長)

今回の選定ではさまざまな観点が浮上りましたが、中でも地域と男女比のバランスを重視できたことはとても良かったと思っています。地方の美術館が編み上げた地域美術のコレクションには、近現代美術の歴史を問い直す重要な作品が数多くあります。女性作家たちの優れた作品群からは、男女が共につくってきた時代や社会のあり方についても学ぶことができます。

木村絵理子(弘前れんが倉庫美術館館長)

「日本で見られるアート100選:現代アート編」というタイトルが、そもそも何を指すのか? 枠組みをどう設定し、どのような基準で選定するのかについて協議する時間は、個別の作品についての議論と同等の時間を要したように思います。(中略)もう1点強調したいのは、2025年現在の視点が重視されていることです。発表当時の影響力以上に、ジェンダーバランスや地域的な多様性といった観点から、時代を経た今、取り上げるべき作品が重視され、加えて、作品を所蔵する美術館とアーティストとの関係性にも力点が置かれています。

島敦彦(国立国際美術館館長)

制作年代、男女比、地域のバランス、分野、国際性、今後の評価、話題性などさまざまな指標を考慮して、とにかく今あらためてご覧いただきたい作品群にまとめ上げることに努めました。選定作品は、各地の美術館でいつでもご覧いただけるものもあれば、いろいろな事情で展示機会の少ないものも含まれます。しかし、何かの折に当該館あるいは貸出先の美術館で実見できる場合もありますので、多くの皆様に各地の美術館の魅力あるコレクションに注目していただきたいと切に願っています。

関直子(早稲田大学文学部教授・埼玉県立近代美術館特任館長)

選定の議論にあたりまず留意したことは、各年代で、新たな表現として注目された女性美術家の活動のありようを、代表的な作品によって辿ることができるようにすることでした。(中略)また、社会の構造やメディア環境が激変した2000年代以降に活動を開始した世代の制作活動が、それ以前の作品群と接続するものでもあることがわかるよう、多様な表現をとりあげました。

柘田倫広(東京国立近代美術館主任研究員)

この100点に対して、誰彼が入っていない、あの作品が入っていない、という声がすぐにでも聞こえてきそうです。そうなんです。日本の現代アートの面白い作品は、100点なんかには収まるものではありません。ぜひここに選ばれた作品たちを見る旅に出て、日本の美術館、そしてそこにある作品たちの豊かさを改めて実感してほしいと思います。そしてみなさんがそれぞれの100点、いや、1,000点を選ぶきっかけになればと思います。

国立アートリサーチセンター長 片岡真実 メッセージ

日本では明治期に、美術あるいはミュージアムという概念が輸入されて以来、長い時間を経て全国各地に数多くの美術館が設立されてきました。それぞれの経緯や運営母体はさまざまですが、我が国の美術館に収蔵されている作品を総体として想像してみると、それらは個々の美術的価値だけでなく、各時代の証言とも言える貴重な文化的、社会的財産でもあります。ただこれまで、そのような視点で全国の美術館の収蔵品を捉える機会はあまりありませんでした。

令和5年度の『文化審議会 第3期文化経済部会アート振興ワーキンググループ 論点整理』では、文化経済政策において「アート振興」が果たす役割を検討するなか、アートが持つ美術的価値および社会的価値を支える美術館が注目されています。そして「日本におけるアートコレクションの歴史を確認し、日本国内に所在する優れたコレクションを可視化するため、「名品百選」等の手法の活用による国内コレクションの可視化とその有効活用を推進する。」という提言がなされています。

国立アートリサーチセンターでは、この提言を受けて、令和7年度、国内美術館が収蔵する優れた作品の可視化を目指す事業として「日本で見られるアート100選」を立ちあげました。初回は「日本の現代アート」を対象とし、以後もさまざまな時代毎、ジャンル毎に継続的にこの事業を実施していく予定です。ここで選定された100点は各美術館の学芸員や専門家の議論を経た結果ですが、その選定の過程では我が国の美術館に時代を代表する極めて優れた美術品が数多く収蔵されていることも改めて認識されました。

日本の美術館の初期は、収蔵品を持たない展覧会場としての役割が大きかったこともあり、歴史的にも「企画展」が重視されてきた傾向がありますが、近年ではその反省も含め、「コレクション展」の充実の必要性も指摘されています。本事業が、選ばれた100作品はもとより、それぞれの美術館に収蔵されているコレクションや「コレクション展」に改めて光を当てる機会となり、我が国の美術や美術館の豊かな歴史が、国内外に広く伝わっていくことを願うものであります。

<報道関係のお問合せ先>

『国立アートリサーチセンター』広報事務局 (株式会社プラップジャパン内)

TEL 03-4570-2273 FAX 03-4580-9127 E-mail ncar@prap.co.jp

※営業時間: 月～金 10時～18時(祝日・年末年始除く)